

# バッジの重みをかみしめて 政策実現と地域活動に全力をつくす

第50回総選挙では立憲民主党が、公示前議席を50議席増やし大きく前進することができました。各県・各選挙区でたたかわれた皆様にあたためて敬意を表します。政権交代は今後の課題となりましたが、それに向けた確実な一步を踏み出したと言えます。保守王国と言われる富山でたたかった私たちの仲間である山としひろさんも、小選挙区では738票差まで追い上げながら僅差で届きませんでしたが、98%を超える惜敗率で比例復活当選を果たしました。今回、山としひろさんに候補者としての決意を固めた4年前から、総選挙での勝利に至るまで、様々な取り組みや思いについて寄稿していただきました。



このたび、富山1区から立憲民主党公認で立候補し比例代表北陸信越ブロックで復活当選することができました。全国の社民フォーラムの皆様の温かいご支援に心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

さて、私が立候補を決意した経緯、公認内定後の取り組み、総選挙闘争をつれづれなるままに振り返ります。

私が立憲民主党の衆院選候補者に内定するまでに紆余曲折がありました。

私は2014年から6年間、社民党全国連合の常任幹事（青年・広報担当）を務めました。吉田忠智、又市征治両党首のもとで、イメージ戦略、青年の意

見を反映した党運営や党改革に取り組みました。しかし、選挙のたびに議席も得票も減り続け、一向に党勢が上向くことはありませんでした。諸般の事情もあり志半ばで、2020年2月の社民党全国連合定期大会を機に常任幹事を退任しました。

その大会で、常任幹事会は立憲民主党への合流問題を提起しましたが、党内の賛否が交錯し激震が走りました。

自ら党運営に関わった経験と合流議論を進める中で、私は社民党という組織ではなくなるものの、私



## 社会民主主義フォーラム第3回全国交流会・総選挙闘争交流会

●開催日時：2024年12月14日（土） 13:00～16:00

●開催形式：完全Web開催となります

●記念講演：テーマ「立憲民主党の目指す社会について」

講師 長妻昭・衆議院議員（党代表代行／政策統括）

※多くの皆様のご参加をお待ちしています。

たちがめざす社会民主主義を実現するための判断として、立憲民主党への合流はやむなしという考えに至りました。

しかし、合流がゴールでなく、闘い続けるには候補者や議員が一定数必要なことも事実です。そこで、私が自ら候補者になることを志願し、2020年盆明け、コロナ禍の只中でしたが、富山市に又市征治さん（当時は社民党顧問）を訪ねました。



偶然（だったのだろうか）、時を同じくして、又市さんと私の共通の知人から「又市さんが山さんと話しをしたがっている」ということを聞きつけ、富山1区での出馬を本気で模索することになりました。

又市さんとの面会や複数の関係者との水面下の調整の結果、2020年9月末、社民党富山県連合（当時）の常任幹事会は、私を富山1区で擁立することを決定しました。その後、11月に愛知県江南市議会議員を辞職して、富山市に移住して国政をめざす活動をスタートさせました。

ところが、新たな壁にぶつかりました。新立憲民主党の発足（2020年9月）と同時に、富山1区の総支部長に国民民主党から合流した人物が内定していました。そのため、私たちが合流した際、候補者調整を求められました。その結果、先方がそのまま総支部長として活動することになり、私は2022年夏の参議院議員選挙・富山県選挙区の総支部長（公認内定者）として任務を担うことになりました。

参院選は大惨敗を喫しました。厳しい選挙になることは覚悟していましたが、供託金没収という惨憺たる結果は、私の政治活動に対する厳しい評価、私の努力不足と受け止めざるを得ませんでした。選挙後しばらく、茫然としていました。再起を期すべきか思い悩んだことも、正直何度もありました。

しかし、退路を断って富山市に移住したからには、新たな闘いに挑む以外の選択肢はありませんでした。

候補者として擁立することを決め、党本部に上申しました。しかし、党本部の選挙戦略上の理由で公認内定が得られず、活動のスタートラインにすら立てない状況が続きました。結局、内定が得られたのは2023年6月でした。

そこから、またいばらの道が待ち受けていました。当時、立憲民主党（代表は泉健太氏）の政党支持率は日本維新の会よりも低く、党勢回復の兆しが見えない状況にありました。

党本部の情勢調査（2023年10月）によると、候補者支持率は10%に達せず、自民党現職に4倍もの差をつけられ目も当てられない状況でした。

さりとて、悩んでいても解決する問題ではないので、行動するしかありませんでした。そこで、手探りで自宅周辺から個々面接活動を始めました。

リーフレット（立憲民主号外）と名刺を持参し軒並み訪問しましたが、平日の日中は約半数超が不在もしくは居留守。在宅していてもインターフォンで「ポストに入れておいてくれ」との対応が多かったです。約100軒訪問すると、好意的な反応はせいぜい2～3軒でした。

自治体議員選挙と決定的に違う点は、いつ選挙があるか分からないことです。事あるごとに解散話が出て、私たち政党関係者は浮足立ちますが、一般の有権者には何も関係ないことです。「立憲民主党の衆議院総支部長」「立憲民主党から国政をめざしている」と名乗っても、素っ気ない反応でした。相手と面識があるわけでもなく、知名度もほぼゼロなので無理ありません。

党や社民フォーラムの皆様からは「選挙の時期は遠くない」「頑張るしかない」「組織やお金がないのだから、一軒一軒歩いて支持署名をもらうしかない」と叱咤激励されました。至極真っ当なご意見ですが、候補者は常に何らかの活動を求められ、精神的なプレッシャーを感じました。まさに常在戦場、岩盤保守の地での孤独な日常活動は、出口の見えないトンネルの中にいるようでした。

**街頭演説日程** **山としひろ** #富山の山

**10/24 [木]**

|             |          |
|-------------|----------|
| 08:30-08:40 | 向新庄交差点   |
| 09:45-09:55 | 水橋中村交差点  |
| 11:20-11:30 | 水橋市田袋交差点 |
| 13:10-13:20 | 豊田東交差点   |
| 14:30-14:40 | 鍋田交差点    |
| 15:00-15:10 | 上富居西交差点  |
| 16:15-16:25 | 綾田交差点    |

個人演説会  
富山同屋センター  
流通会館  
18:30～

人にやさしい政治

個々面接だけで、知名度が簡単に上がるものではありません。そこで、街頭演説の場所や回数を徐々に増やすことにしました。

2022年9月、立憲県連が私を衆院富山1区の

街頭演説は今や政治活動の基本中の基本です。しかし、都心部の選挙区とは違い、車社会の地方には通勤ラッシュで人がひっきりなしに行きかう駅はほとんど皆無です。そこで、主要交差点やスーパーマーケットなどの商業施設の前に立つことにしました。来る日も来る日も個々面接、街頭演説などの繰り返しでした。「これがいつまで続くのだろうか」「(イチかバチか) 今すぐに選挙をやってほしい」と思ったことが幾度となくありました。



潮目が変わったのが、2023年の年末に明らかになった自民党派閥による裏金問題でした。個々面接の中では、裏金問題に対する怒りが沸き立っていることをひしひしと感じました。国民が物価高や収入の伸び悩みに苦しむ中で、政治家が国民生活そっちのけで、裏金作りに勤しんでいたことに対して、多くの皆様が厳しい眼差しを向けていました。年明け以降、私や立憲民主党への激励が僅かながら増えてきました。

今回は公示前から、連合富山と加盟する労組が全力で支援していただきました。特に通常国会の閉会後から、連合地協が早朝や週末のスポット街宣や街頭アピールを何度も企画し、行動を共にしました。また、産別や単組の集会などであいさつの機会を数多く設けていただきました。

合流以降、自治体選挙や参議院議員選挙などの選挙闘争や各種会合での意見交換などの積み重ねがあったこそ、支援の輪を広げていただけたものと認識しています。

選挙はいかに候補者を売り込むのがポイントになりますが、私は(見た目も発言も)地味で目立たないと言われてきました。そして懇親会の席上、ある労組役員が「山さんの髪形を変えてイメチェンさせよう」とぶち上げました。床屋で散髪する様子を動画で撮影し、SNSでアップする企画が出来上がりました。

軽いノリのオモシロ企画ですが、思わぬ壁にぶつかりました。理容組合は自民党の支持団体であるこ

とから、自民党の顔色を窺って取材を断るお店が続出しました。支援者のついででなんとか引き受けてくれる店が見つかりましたが、店主夫妻は自民党員でした。

いかにも保守王国らしいエピソードですが、無事に動画を撮影して、公示後SNSにアップしました。

世論の風向きは悪くないものの、絶対に勝てる確証を持てぬまま公示日を迎えました。まだまだ知名度が低く、後援会組織が稼働しているわけではなかったため、とにかく街頭に出て、自分の思いを一人でも多くの有権者に届けようと、連日街頭活動を重視する選挙戦を展開しました。

長年、選挙活動に携わっていれば、有権者の反応が良いのかどうか分かります。交差点などで街頭演説をしていると、以前と比べものにならないほど、手を振ってくれる人々、激励してくれる人々が増えていることを実感しました。さらに、選挙カーで住宅地を遊説していると、家から飛び出てくる人もありました。

マスコミの情勢調査で、「相手候補と山が競っている」「横一線」と一斉に報じられると、陣営は気が緩むことを警戒し、一層の結束を確認しました。応援に駆け付けた大串博志・選対委員長、岡田克也・前幹事長からは「一瞬でも気を緩めた時点で負け」「小選挙区で勝ち上がってもらわないと、政権交代ができない」と奮起するよう鼓舞されました。

今回、力強い援軍として村井宗明さんが2回応援に駆け付けました。村井さんは富山1区を地盤として2003年～2012年まで連続当選3回しており、今でも街を歩くと、かつての支持者から盛んに声を掛けられる知名度の高い人物です。村井さんが応援に入ったことも票の積み上げに貢献しました。

連合富山や各産別・単組からは、連日大勢の役員・組合員が寝食を惜しんでボランティアに駆け付けていただきました。特に、街頭活動では常に先頭に立ち、活動を盛り上げてくれました。連合富山が総力を挙げて勝利に向けた活動を展開しました。



## ※まとめ

国政をめざす活動を続けて4年。衆議院議員になるのに4年という期間は長かったのか、それほどでもなかったのか、受け止め方次第です。

社民フォーラムの仲間の皆様の支援、連合富山の組織的支援、自民党派閥の裏金事件、物価高と経済低迷など、様々な情勢が結果的に追い風となり、比例復活とはいえ当選を勝ち取ることができました。

他方で、多くの課題があることを受け止めなければなりません。連合・組合頼みの選挙戦に終始し、後援会活動ができる態勢になっていません。立憲民主党や社民フォーラムの組織力は、自民党とは桁違いの格差があります。次回の総選挙はいつあるか分かりませんし、追い風ばかりが吹くとは限りません。それゆえに、草の根の後援会づくりや党勢拡大は急務です。掛け声倒れに終わらせることなく、議員となった私が先頭に立って、新しい道を切り開いてい

くしかありません。

バッジの重みをかみしめて、政策の実現に全力を尽くすこと愚直に地道に地域活動を強化することを同時並行で進めていくことをお約束します。

今後ともよろしくお願いします。

## 2025年全国自治体議員夏季研修会 日程が決まりました

来年の夏季研修会開催地については宮崎県に決定していますが、この度日程が下記の通り確定しました。ぜひ自治体議員の皆様の日程確保をお願いします。

●2025年8月17日（日）～18日（月）

●開催地は宮崎県

## 資料 立憲民主党 「第50回衆議院議員選挙総括」より抜粋

今回の選挙では、野党間の「候補者調整」は成立せず1対1の構図の選挙区は限定的となった。野党候補が複数競合する選挙区が増えた中で、立憲民主党は104の選挙区で公認候補が小選挙区を勝ち抜き、大きな成果を得た。参議院選挙に向けては、与党の議席を1つでも減らすための戦略を改めて構築していく。

一方で、比例得票ではおよそ7万票の上積みにとどまった。政権の批判票の受け皿としてだけでなく、それ以上の期待値と訴求力を高めていくことは今後の重要課題。自公過半数割れという選挙戦の結果は、国民・有権者が政権に対し不信任をつきつけたものであり、立憲民主党に課せられた責任は大きい。

### ■ 比例票の推移と無党派層・浮動層等の支持動向

小選挙区の当選は大きく伸ばし、自民党支持層の取り込みは増加しつつも、無党派層の支持や比例得票が大きな伸びにつながらなかったことについては課題として強く認識し、更なる分析が必要である。

### ■ 野党連携

連合の仲立ちを得て、連合、国民民主党と3者間の協議を重ねてきた。参議院選挙へ向けて、特に一人区については集票構造をよく分析し、構図づくりや具体対策など、野党議席最大化の戦略を構築していく。

### ■ 選挙対策の取り組み

比例対策を重視し取り組んだが、結果を見る限り改善に余地があることは否めない。国民民主党やれいわ新撰組など、選挙区擁立が40強や20程度であっても比例票を取り込んでいる結果について、それらの動向に影響を及ぼした要因を分析する必要がある。

### ■ 今後への課題と取り組み

候補者の日常的な運動の積み重ね、都道府県連および総支部の組織力の底上げ、自治体議員を増やすこと、各種団体との恒常的な協力関係の構築などの強化に向け、党本部と地方組織の連携を深めていく。

「真ん中層」を取り込むという前回選挙からの課題への対策は、一定の成果につながった。コアを固めながら幅広い層の受け皿となるために中道の立ち位置を打ち出すことは、重要かつ最適な点であり、今後も堅持しつつ、より多くの無党派層・浮動層からの支持を得るための対策・対応に、工夫と改善を図っていく。